

松陵

秋田県立能代高等学校
同窓会事務局

〒016-0184 能代市字高塚2-1
能代高校内

TEL 0185-54-2230

FAX 0185-54-2231

題字は元会長神馬恒成氏

印刷所 (株)北羽新報社



同窓会会長 山本達行
(39期)

さあ、前に進みましょう

猛暑と豪雨そして街を徘徊するクマに悩まされた令和7年でしたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年度最大の行事であった母校創立百周年事業も最終盤を迎え、1月末発行予定の百周年記念誌の刊行を残すだけとなりました。この間、多くの会員からのご寄付により各種事業を予定通りに実施し、意義深い年にする事ができました。特に式典・記念講演・祝賀会には多くの方々に参加してもらい、百年の伝統を肌で感じられる充実した機会となりました。在学中の生徒にとっても、改めて自らの足元を見直す良い機会になったと思います。ご協力に、厚くお礼申し上げます。

さて、これから能代・山本地区では高校の統合問題が本格的な議論の対象になります。

令和6年9月に示された「第8次高校総合整備計画」素案通りであれば、「能代山本地区高校3校を2校へ統合再編する」方向で検討されており、令和7年12月に成案が出され、地域協議会が設置されることになっています。役員会では、この事態への対応を協議し、できるだけ早期に「能代の高校教育を考える会(仮称)」を設置し、今後の能代地域の高校教育のあり方について幅広い層で議論する場の設置を要望してきました。その後、能代市では「高校魅力化」を地域活性化の重要課題と位置づけ、そのための「推進会議」を立ち上げようとしています。この方向性は私達が望むものでもあり、内容をしっかりと見極めながら対応していきたいと考えています。

ただ現在、同窓会の最も大きな問題は会費納入額の減少

創立百周年を迎えて

校長 平川 研
(54期)



同窓会の皆様には日頃より母校に對して深い愛情と心強いご支援、ご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

10月10日の創立百周年記念式典では、秋田県知事、秋田県教育長をはじめ多くの来賓、同窓生、保護者の皆様をお迎えし、生徒・教職員とともに、本校の歴史と伝統をお祝いすることができました。また、記念講演では山田久志氏にご登壇いただき、長年の野球人生の経験から、大事な場面での心構えや健康管理、準備の大切さ、人との出会いの意義などについてお話しいただき、生徒たちはこれからの人生に大いに役立つ学びを得ることができました。

今年度は、さまざまな行事を百周年記念の冠を掲げて実施いたしました。5月、6月に行った招待試合は、軟式野球が昨年度全国選手権大会準優勝の仙台商業高校、硬式野球が今年度甲子園に出場した弘前学院聖愛高校をお招きし、全校生徒で試合を応援し、交流を深めました。6月の行事ウイーク、校内体育大会では記念種目として全校リレーを実施し、能高祭で

はステージ上に百の数字を掲げ、演出にも工夫を凝らし、お笑い芸人ジョイマンにも登場していただきました。10月には記念演奏会として秋田フィルハーモニー管弦楽団の演奏を鑑賞し、生徒による指揮者体験やオーケストラでの校歌合唱という特別な体験もできました。様々なことを経験し、楽しむことで、生徒たちにとって心に残る百周年であることを願っております。

一方で、春から準備を進めてまいりました「千里強歩大会」は残念ながら中止となりました。県内でのクマの出没が例年以上に多く、コース上での目撃情報や深夜の人身事故の発生なども重なったことから、生徒、保護者、職員の安全を最優先に判断したものです。楽しみにしていた生徒たちには申し訳なく思っております。

このように、今年は能代高校にとって特別な年でありましたが、生徒たちの夢の実現に向けた挑戦はこれからも続きます。同窓生の皆様には、今後ともこれまでと変わらない温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年 能代高等学校同窓会総会・新年祝賀会のご案内

- ◎日時 令和8年1月31日(土)
総会 午後4時
講演会 午後4時30分
講師 菊地 郁生氏(52期)
演題 能代高校軟式野球部の軌跡(仮)
懇親会 午後5時30分
◎会場 プラザ都(能代市柳町)
電話(0185)54-2244
◎会費 6,000円(当日持参)

※当番幹事は52期・54期です。
参加申込は同窓会事務局または各期幹事へ連絡してください。
同窓会事務局(能代高校内)
電話(0185)54-2230
FAX(0185)54-2231

同窓会役員
(任期：令和5年9月23日～令和7年9月総会まで)
周年行事のある年は翌年1月の新年祝賀会まで延長されるのが恒例となっています。

会長 山本 達行 (39期)
副会長 柴田 寛彦 (37期)
副会長 泉田 俊英 (47期)
副会長 牧子 (48期)

総務主任 大橋 孝行 (61期)
事務局長 佐藤 智行 (55期)
名簿担当 松岡 道浩 (54期)
記念誌担当 関根 基己 (68期)
会計担当 梅田 香 (65期)

監査 小松 優平 (33期)
監査 林 敏悦 (50期)
監査 塚本 恵弘 (42期)

創立100周年記念式典

百代脈打つ 至誠の輪

み空に満たせ 松陵の風



創立百周年記念式典が10月10日(金)午後1時から本校第1体育館で挙行された。来賓、全校生徒483人、同窓生、旧職員、PTA会員等約700人が参加し、二ツ井キャンパスの生徒74人と教職員はオンラインで中継映像を視聴した。

百周年記念招待試合結果

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
能代	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
仙台商業	0	0	0	0	0	2	2	0	X	4

軟式野球部の試合結果 (令和7年5月30日(金))

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
弘前聖愛	2	0	0	3	0	1	1	0	0	7
能代	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3

硬式野球部の試合結果 (令和7年6月2日(月))

平川研校長(54期)の式辞、山本達行実行委員長(39期)の挨拶、来賓祝辞、生徒代表挨拶のあと、教育功労者と特別功労者に対する表彰状並びに感謝状贈呈が行われた。休憩のあと、本校37期生で阪急ブレーブスのエースとして「サブマリン投法」で通算



284勝を挙げ野球殿堂入りした山田久志氏が、硬式野球部の後輩である伊藤康夫(55期)、田口俊成(55期)両氏の質問に答えるインタビュ形式で社会人野球やプロ野球人生を語った。タイトルは「私の野球人生 栄光に近道なし」。

山田氏は「人生を振りかえると、私は人との出会いに恵まれた。両親や指導者などプロ入りには出会いが大きかった。何事も達成するためには健康と準備が大事で、良い結果が出せると思う」と語りかけた。

祝賀会

祝賀会は午後6時から柳町のプラザで行われた。3階樹海の間を最大のスペースに広げて使用し21の円卓に約



百周年記念誌発行

これまで20年近く同窓会報「松陵」の編集を担当してきた事務局の小林勝平氏(33期)は、「メールで連絡をとるだけだった北海道支部事務局長の大槻政哉氏(58期)にはじめて会えた」と喜んでいて。大槻氏は、会場内のあちこちで写真撮っている人を見て、この人が小林さんだろうと思って声を掛けたのだそうだ。

これまで式典当日に発行していた記念誌は、今回は式典当日の内容も入れて、来年1月末に発行できるように、作業を進めております。ご期待ください。

事務局からのお知らせ

会費納入額の減少から、事務局ではこれまで同封していた「同窓会費納入者御芳名」等の添付を取りやめ経費節減を図ることを考えております。総会への提案は1月になります。決定してからの連絡では皆様への連絡が1年遅れることとなります。そうなることを想定し、郵便局やコンビニの領収書の保存をお願いします。

令和7年3月卒業生 進路状況一覧

生徒数		男	女	計
		88	97	185
大 学	国公立	36	39	75
	私 立	34	29	63
短 大	国公立	0	4	4
	私 立	0	3	3
専修・各種学校		2	11	13
就 職		11	8	19
そ の 他		5	3	8

技大会W19クラス(女子20歳未満)の3.5メガヘルツ帯クラ



向探索)競
足立藍さん(3E)は、昨年10月の全日本ARDF(アマチュア無線方向探索)競

高い志を胸に
世界ARDF競技大会出場
平成30年以來の快挙

今年度の県高校文化連盟主催県高校新聞コンクールにおいて、本校新聞部が発行した「校友時報」(第305号)が最優秀賞に選ばれました。紙面から生徒の活躍についての記事を抜き出し、紹介します。



シックス競技で優勝、144メガヘルツ帯同競技で準優勝という素晴らしい成績を収めた。そして、今年8月16日からリトアニアで開催された第22回世界ARDF競技大会に日本代表として出場した。本校の無線部から世界大会に出場が決まったのは平成30年以來の快挙である。世界大会の出発前にお話を伺った。

「入部したときからの目標である全国大会優勝と世界大会出場を達成することができ、とても嬉しい」と語る足立さん。全国で勝ち進んでいくために、筋肉トレーニングや無線の音を聞き分ける練習をしてきたという。思った通りの結果にならず悩むこともあったが、無線部の仲間が励ましてくれたことや、「世界大会出場」という目標があったことがモチベーション維持につながったそう。

中学校時代は卓球部に所属していたが、先輩が世界大会に出場したことを知り、自分も同じ舞台で活躍したいと思い無線部に入部したという。「範囲が広い分体力が必要になり大変だが、とにかく走って受信機を探すことや、競技中に、受信機がどこにあるかどうやって探せば良いのかを考えることが無線競技の魅力だ」と笑顔で語った。

座右の銘は「猪突猛進」。どん

同窓会会計報告

□ 令和6年度 同窓会経常費決算
(令和6年9月1日から令和7年8月31日まで)

収入の部

項目	6年度予算額	6年度決算額	比較増減	摘 要
1 繰越金	1,665,228	1,665,228	0	
2 入会金	1,432,800	1,418,400	△ 14,400	7,200円×197名
3 会費	1,450,000	1,310,000	△ 140,000	郵便局888,000円、コンビニ422,000円
4 寄付金	1,000	140,723	139,723	秋田支部解散に伴う寄付140,723円
5 その他	772	360,311	359,539	百周年記念事業から補填353,418円など
合 計	4,549,800	4,894,662	344,862	

支出の部

項目	6年度予算額	6年度決算額	比較増減	摘 要
1 会議費	400,000	323,911	△ 76,089	
2 慶弔費	10,000	17,280	7,280	
3 卒業関係費	120,000	118,162	△ 1,838	入会記念品
4 通信印刷費	2,200,000	2,553,418	353,418	会報印刷・発送費、新聞広告
5 事務費	10,000	4,353	△ 5,647	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	教育振興会へ
7 同窓会活動促進事業	560,000	214,410	△ 345,590	東京同窓会懇親会、北海道支部総会、県庁能高会総会
8 事業費	40,000	38,280	△ 1,720	インターネット利用料
9 会費振込手数料	160,000	99,300	△ 60,700	郵便局44,322円、コンビニ54,978円
10 予備費	49,800	0	△ 49,800	
合 計	4,549,800	4,369,114	△ 180,686	

《差引残高》 収入 支出 次年度への繰越金
4,894,662 - 4,369,114 = 525,548

II. 基金

種類	令和6年度決算	平成5年度決算	摘 要
1 秋田銀行積立	21,694,368	31,683,879	R7.2.13.百周年用に1,000万円引き出し
2 秋田銀行定期	892,822	892,633	利息 189円
3 秋田銀行定期	1,007,594	1,007,381	利息 213円
4 秋田銀行普通	2,128,162	2,125,611	利息 2,551円
合 計	25,722,946	35,709,504	

□ 令和7年度 同窓会経常費予算

(1) 収 入

項目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比較増減	摘 要
1 繰越金	525,548	1,665,228	△ 1,139,680	
2 入会金	1,447,200	1,432,800	14,400	7,200円×201名
3 会費	1,300,000	1,450,000	△ 150,000	2,000円×650名
4 寄付金	1,000	1,000	0	
5 その他	252	772	△ 520	預金利息等
合 計	3,274,000	4,549,800	△ 1,275,800	

(2) 支 出

項目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比較増減	摘 要
1 会議費	400,000	400,000	0	各支部総会出席費用等
2 慶弔費	10,000	10,000	0	電報等
3 卒業関係費	120,000	120,000	0	入会記念品
4 通信印刷費	1,300,000	2,200,000	△ 900,000	会報印刷・発送費、はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	10,000	0	事務用品
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 同窓会活動促進事業	260,000	560,000	△ 300,000	
8 事業費	40,000	40,000	0	インターネット利用料
9 会費振込手数料	130,000	160,000	△ 30,000	会費収入×10%
10 予備費	4,000	49,800	△ 45,800	
合 計	3,274,000	4,549,800	△ 1,275,800	

□ 令和6年度グローバル人材育成基金会計

令和7年8月31日現在

収入の部

項目	6年度決算額	摘 要
繰越金	10,427,226	
寄付金	1,000	郵便振替 1件
雑収入	14,736	預金利息
合 計	10,442,962	

支出の部

項目	6年度決算額	摘 要
事業費	1,034,635	
1. 補助	1,034,635	ARDF世界選手権出場経費
振込手数料	100	郵便振替 100円
合 計	1,034,735	

収入総額 支出総額 残高
10,442,962 - 1,034,735 = 9,408,227 (次年度繰越金)

なに難解でもどんどん突き進んでいきたいという思いが込められていた。一つの目標に向かってひたむきに努力する足立さんらしい言葉である。

リトアニアで楽しむことを同うと、「様々な国籍の人と一緒に競技できること」だとい「刺激をもらいながら競技に臨み、全力で楽しみたい」と笑顔を見せた。また、「全国大会で優勝したとき、先生も家族も皆が喜んでくれた。感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張りたい。目指すのは優勝！」と意気込んだ。

(事務局注 足立藍さんは見事3位に入賞しました)

ナレッジイノベーションアワード 高校生アイデア部門優秀賞



林和佳奈さん(3E)

にお話を伺った。今年3月に大阪で開催された第12回ナレッジイノベーションアワードの高校生アイデア部門に出場し、優秀賞という輝かしい成績を残した。

ナレッジイノベーションアワードは、産業創出や人材育成を目指し、斬新なアイデアや活動を表彰して社会に発信すること

とを目的として行われている。

先輩の合格体験講話で、SDGsに関する探究アワードのお話があり、自分も参加してみたいと思ったことがきっかけだった。「スタートは小さな目標だったが、それが探究の優秀発表につながり、最終的にイノベーションアワードで優秀賞を受賞することができてとても嬉しい」と喜びをにじませた。

林さんが出場した高校生アイデア部門は、未来の仕事について考える部門で、林さんは「目指せDRR(減災)！空間創出デザイン」というテーマを掲げ発表した。

美術部員である林さんは、過去に自宅周辺が浸水して避難をした経験があり、「周囲の環境の色味と人々の心理を結びつけることで、避難生活の質を向上させるのでは」と考え、このテーマでの探究活動を進めたという。

林さんは、「色合い・明度・広さ」の3つの観点から探究活動を進め、プロジェクトマップピングを活用した「アットホームスペース」を見いだすことが必要であるという結論を出した。

イノベーションアワードの最終審査会に向けて、カラオケで発表の練習をしたという。「音響設備が整っていて、人目を気にすることなく練習できた」と話していた。

大学では心理学や芸術学など自分の得意分野の学びを深めていきたいと語った林さん。将来は起業して、災害時でも日常生活でも使用できるような商品づくりをしたいと熱意を見せた。

足立さんも林さんも、現状に満足することなくもつと高みを目指して努力を続けようとする姿が印象的だった。明確な目標をもち、粘り強く取り組むことが成功のカギなのだろう。



県庁能高会総会

7月10日(木)
アキタパークホテル

来賓を含め参加者26名で開催されました。山本将弘会長(53期)の挨拶の後、平川研校長(54期)から学校の近況説明がありました。続いて山本達行同窓会長(39期)が祝辞を述べ、お忙しいなか駆け付けていただいた薄井司県議(49期)の乾杯で懇談が始まりました。若い会員が多い非常にエネルギッシュな会で、県庁職員らしく秋田県の未来を語る様子に、大いに励ま

されて帰ってきました。

(会長 山本達行)

東京同窓会総会

10月4日(土)
アルカディア市ヶ谷

総数90名の参加者をもって開かれました。今年には初参加者が14名と例年より多く、20代の参加者も3名おりました。大高忠勉さん(62期)の司会のもと、吉田真由美会長(46期)の挨拶、山本達行本部長(39期)の祝辞の後、高橋弘志氏(66期)を議長に今年度の活動・収支決算並びに来年度の方針・予算と個人情報保護規程類の改定について審議し、原案通り承認されました。この個人情報保護規程については、本部でも明文化すべきと考えていたところであり大いに参考になりました。総会後、73期の大石大(本名 大石和太)さんによる「小説家という仕事」という講演がありました。これまでにもステリー小説5作品を刊行しており、能代高校山岳部のエピソードや小説家を志したいきさつ、能代への思いを含めた作品のことなど興味深い内容でした。

懇親会では、平川研校長先生(54期)から母校の近況についてお話いただきました。今年には創立百周年のお祝い気分にあふれた会となり、同期と再開を喜

ぶなど世代を超えて交流する様子が見られました。恒例により校歌を4番まで斉唱した後、高田政勝さん(32期)による万歳三唱でお開きとなりました。

(東京同窓会HPより)

北海道支部総会

10月18日(土)
三川屋会館

9名で開催されました。百周年記念式典にご出席くださった大槻政哉事務局長(58期)の、母校愛あふれる挨拶に始まり、式典当日、国道から母校に通じる道を、詰め襟の男子学生が誘導する、その光景の感動です。「軟式野球部の生徒たちが、ますますの視線と大きな声の連携プレーで、駐車場へと誘導してくれました」とのこと。

懇親会は、記念式典と、県教委が示した高校再編の話題で盛り上がりました。母校の存続に、自称？歌舞伎顔した石塚善宏氏(60期)が、「同窓会、頑張ろう！」と大きな声を上げました。北の大地に集った松陵健児の皆さん。身寄りや人脈もない地で、ご自身のチカラだけで、今のポジションを得、力強く生きる方々です。松陵の風は、遠き地にも、至誠力行の種を運んでくれました。とても楽しく、また有意義な北海道支部総会でした。

(副会長 泉牧子)